

大桑城跡調査事業 ～郷土の貴重な歴史資産を未来へ繋ぐ～

山県市教育委員会 生涯学習課

●戦国時代の山城「大桑城跡」を国史跡指定へ

大桑城は、今から約480年前の戦国時代に、美濃国を治めていた守護土岐氏により整備された山城です。研究者の間では、城の規模は美濃国最大とも言われており、歴史ファンや山城ファンには有名な山城でしたが、NHK大河ドラマ「麒麟がくる」に登場し、より多くの方々に知っていただくことができました。

山県市は、大桑城跡の国史跡指定を目指し、令和2年度から調査事業を実施しております。国史跡指定を受けることになれば、国補助金を活用した整備（例えば復元、ガイダンス施設の設置、標識や説明板の設置）なども可能となります。これにより全国にその名が知れ渡り、山県市のかげがえのない歴史資産としての認識が一層高まるとともに、観光資源として活用を図っていくこともでき、強いては地域活性化に繋がるものと考えております。

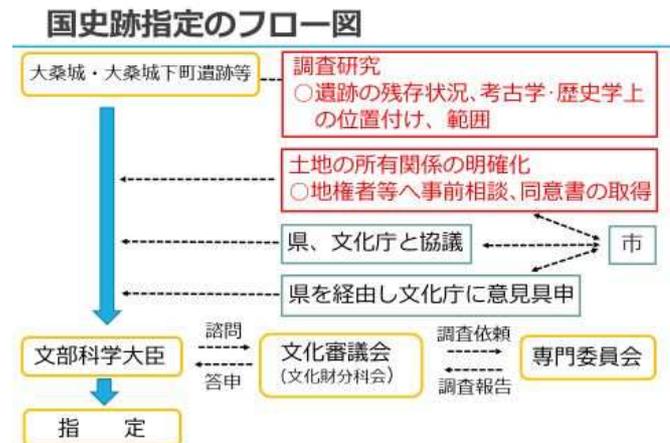
●文化財調査室の立ち上げ

山県市は、大桑城跡の国史跡指定に向け、令和2年度から教育委員会生涯学習課に文化財調査室を設置し、各種調査事業による大桑城の価値付けや、調査でわかった大桑城の魅力を市内外に広く情報発信する普及啓発活動などを実施しております。

●国史跡指定へのプロセス

山県市大桑城跡調査検討委員会及び専門部会を設置し、大桑城跡及び関連遺跡等の各種調査に関する指導、助言等を仰ぎながら調査を進めております。

調査は、地形調査・石垣調査・発掘調査・石製品調査・文献史料調査などを実施し、令和5年度に原稿を執筆します。そして令和6年度に総合調査報告書を作成・刊行し、史跡指定に必要な書類と併せて国へ意見具申する予定です。



- ・山県市大桑城跡調査検討委員会 <委員長>中井均（滋賀県立大学名誉教授）、<副委員長>内堀信雄（岐阜市役所ぎふ魅力づくり推進部文化財保護課） <委員>三宅唯美（恵那市教育委員会生涯学習課）、新谷和之（近畿大学文芸学部）、西村覺良（山県市文化財審議会会長） <オブザーバー>小野木学（岐阜県庁環境生活部県民文化局文化伝承課） 敬称略
- ・山県市大桑城跡調査検討委員会専門部会 <部会員>木下聡（東洋大学文学部）、石川美咲（福井県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館）、岩永紘和（京都大学大学院文学研究科） 敬称略

●調査事業の成果

①石垣が約80箇所で残存

大桑城跡において、先行研究では石垣を10箇所確認しておりましたが、石垣の分布調査により、新たに約70箇所確認し、石垣が約80箇所残存していることを確認しました。当時は、土を削ったり盛ったりしてつくる土の城が主流でしたが、土岐氏は石垣という新しい技術を取り入れた城づくりを行っていることがわかりました。

②巨石の技術を導入し、大桑城の城門を整備

城の入口であり、江戸時代に描かれた絵図に岩門と記されている場所（伝「岩門」）で実施した発掘調査により、この場所が2mを超える巨石を使用した城門であったことを確認しました。美濃において、城づくりに巨石の技術を導入したのは、織田信長が整備した岐阜城山麓居館が初めてと考えられておりましたが、その織田信長に先行して、巨石を用いた城門を整備していたことになります。土岐氏は巨石により、守護の権威を示そうとしたと考えられます。



伝「岩門」の巨石石垣

③山上の城に庭園とそれを眺める建物の痕跡か

江戸時代に描かれた絵図に台所と記されており、山頂部付近では面積が最大となる曲輪（伝「台所」）で実施した発掘調査により、池を持つ庭園とそれを眺める建物と考えられる痕跡や、装飾的な石垣を確認しました。土岐氏は、山上の城で庭園を眺めながら、優雅な生活をしていたことが推測されます。



伝「台所」の庭園跡

④石垣を持つ中央通路と多量の遺物

大桑城最大の特徴とも言われ、大小20から30程度の人工的に造られた平坦地が集まる場所（曲輪群）で実施した発掘調査で、曲輪群の中央に石垣を両側面に持ち、幅約2.2メートルの中央通路を確認しました。また中国産の磁器や国産（瀬戸・美濃地方）の陶器、土師器皿（かわらけ）など、600点以上の多量の遺物が出土し、その中には唐物茶入や特注品の花器など珍しい遺物も含まれております。曲輪群には、土岐氏が居住していた可能性が考えられ、また中央通路は、守護の権威を象徴しているものと感じさせられます。



曲輪群の中央通路

●大桑城の文化財的価値やその魅力と今後について

大河ドラマでの土岐氏は、斎藤道三のあやつり人形のような「弱い守護」として描写されていましたが、調査を行い、実際の大桑城を見る限り、土岐氏は守護の拠点にふさわしい城づくりを行っていたということが、少しずつ解明されてきております。大桑城は、戦国時代に守護が整備した山城であり、我が国にとって歴史上そして学術上の価値が高いものに値すると考えております。またその残りの良さから、約480年前の戦国時代にタイムスリップすることができる空間であることが、大桑城の最大の魅力だと思います。こうした大桑城の価値やその魅力は、広く市内外に情報発信し、より多くの方々がその魅力に触れていただくとともに、本市の貴重な歴史資産として、大桑城跡を未来へ繋いでいきたいです。大桑城跡の調査と継承が、シビックプライドの醸成や交流人口の増加に繋がっていき、市民は勿論、全国から多くの方々が訪れる場所となり、郷土の貴重な歴史資産として、大桑城跡を未来へ世代を超えて繋いでいきたいと考えております。